

次に福岡で見られるのは 10 年後！

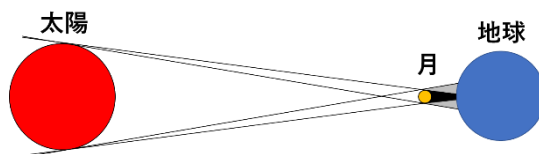
6月21日 部分日食

発行：福岡県青少年科学館

2020年6月21日、日本全国で部分日食が見られます。次に福岡で日食が見られるのは2030年6月1日と、約10年も後です。今回は、日食と日本での日食の観測に貢献した人物に焦点をあててみましょう。

日食って何だろう？

日食とは、月が太陽の前を横切るために月によって太陽の一部、または全部が隠される現象のことです。このとき、太陽と月、地球が一直線に並び、月の影が地球に落ちます。地球上で、この影の中にいる人から太陽を見ると、欠けて見えるのです。



日食が起こるしくみ
(大きさなどの比率は実際とは異なります)



2019.1.6 部分日食の様子
(当館にて撮影)

日食には、太陽がすべて月に隠される「皆既日食」、太陽の方が月より少しだけ大きく見えるため、月の周りから太陽がリング状にはみ出して見える「金環日食」、また、半影に入ることによって月が太陽の一部を隠す「部分日食」があります。今回、福岡で見ることができるのは「部分日食」です。

6月21日 福岡の空

食の始め
15時59分40秒

食の最大
17時09分33秒

食の終わり
18時11分23秒

2020.6.21 部分日食の様子

(ステラナビゲータ11 / 株式会社アストロアーツ)

今回の日食はどのように見える？

今回の日食で、福岡で太陽が欠け始めるのは15時59分40秒です。一番大きく欠けるのは17時09分33秒で、太陽の面積のうち52.4%が欠けた様子を見ることができます。日食が終わるのは18時11分23秒です。夕方ですから、太陽は西の空に見ることができます。この日食は約2時間にわたって続きますので、観察できるチャンスは十分にあります。観察するときは、使用法を守って日食専用のグラスを使ったり、厚紙などに小さな穴を開けたピンホールを利用して影に映る太陽の形を見たりと、目を痛めない安全な方法で行うことが大切です。

正確な日食の観測に貢献した渋川春海（しぶかわはるみ）

慣れ親しんだ丸い太陽が突然欠けていく日食は、災いの前兆だと恐れられていた時代がありました。しかし、日食の予測ができるようになった現在では、天文ショーとして親しまれています。日本では、いつ頃から予測ができるようになったのでしょうか。それは江戸時代なのです。

当時、日本で起こる日食の予測は実際より2日ほどずれていました。その原因は、中国から伝わった暦をそのまま使用していたためだと気づき、正確な予測を可能にしたのが渋川春海です。渋川春海は、中国と日本の経度差を加味し、ずれていた近日点（地球と太陽が最も近づく場所）

を修正することで、貞享暦（じょうきょうれき）という日本独自の新しい暦をつくりました。そして、天体観測や過去の日月食の分析により、その暦の正しさを実証し、正確な日食の予測を可能にしたのです。

今では正確な予測ができるだけでなく、人工衛星によって、日食の様子を宇宙からも観測できるようになりました。今回の日食を観察しながら、科学技術の進歩にも思いをはせてみましょう。



渋川春海（当館展示 おしゅべり宇宙劇場より）